

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：12601

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

研究期間：2018～2023

課題番号：18KK0036

研究課題名（和文）ロシアの軍事大国化と中東、環黒海地域

研究課題名（英文）Russia as a Military Power and Its Relations with the Near East and the Black Sea Rim

研究代表者

松里 公孝（Matsuzato, Kimitaka）

東京大学・大学院法学政治学研究科（法学部）・教授

研究者番号：20240640

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,800,000円

研究成果の概要（和文）：今世紀、ロシアは軍事大国化し、2014年にクリミアを併合、2015年にシリア戦争に参加した。それまで中東・環黒海地域ではバラバラに展開してきた諸紛争がロシアを軸として関連し始めたことに注目し、国内外で旧ソ連研究者と中東研究者の研究協力を強化することを本研究は目指した。2020～2021年度、COVID-19のせいで海外渡航も海外からの研究者招聘もできないという困難に見舞われたが、その分、予算を繰り越すことになり、2023年度に活発に国際的な学会参加・研究集会組織を行った。研究課題に則して多数の業績を発表したのみならず、露ウ戦争・パレスチナ戦争開始後、日本社会に専門知識を提供することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

旧ソ連・中東の枠を超えた協力関係が形成され、当初設定していた軍事プロパー、ロシアの政策決定過程、広域研究、難民など戦争人道問題のすべてについて、多数の業績を発表することができた。2022年にはウクライナ戦争、2023年にはパレスチナ（ガザ）戦争が始まった。本研究の代表者・分担者は、学会や学術出版物にだけでなく、テレビ、新聞、YouTube、総合誌、新書の形で論考を活発に発表することを求められたが、本研究の下地もあって、時局論ではない、質の高い知識を社会還元することができたと思う。

研究成果の概要（英文）：In this century, Russia revitalized as a military power, annexed Crimea in 2014, and participated in the Syrian War in 2015. Various conflicts, which used to unfold separately from each other in the Middle East and the Black Sea Rim, began to be connected with each other. Scholars were not able to cope with this situation because former Soviet and Middle East specialists did not cooperate actively. We targeted to overcome this academic segregation. In 2020-2021, COVID-19 prevented us from promoting international cooperation, but in 2022-2023 we restarted international activities. We could publish many articles and books on the planned research agenda: (1) Russia's military per se, (2) the Russian government's decision-making, (3) macro-regional analysis, and (4) refugees and other humanitarian issues. Moreover, we could satisfy Japanese society's demand for qualified expertise after the beginning of the Russo-Ukrainian and Gaza Wars, partly thanks to this project.

研究分野：政治学

キーワード：露ウ戦争 ドンバス戦争 シリア戦争 第2次カラバフ戦争 ロシア ウクライナ トルコ プーチン

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 21世紀に入るとロシアは軍事大国化し、2014年にクリミアを併合し、2015年にシリア戦争に参戦した。このことによって、それまで中東・環黒海地域でばらばらに展開してきた諸紛争がロシアを軸として関連し始めた。

(2) ところが研究の側は、日本においても諸外国においても、旧ソ連研究と中東研究の交流・協力が不足していたため、この新しい状況に対応できなかった。ロシアの中東政策、コーカサス政策、ウクライナ政策、およびそれらが置かれた環境を総合的に分析することができなかった。

2. 研究の目的

(1) 中東・環黒海地域におけるロシアの軍事外交政策に関心を持つ研究者を国内また国際的に糾合して、旧ソ連研究者と中東研究者が連携した新たなコミュニティを作る。

(2) 日本の社会科学においては傍流の位置に置かれてきた軍事を本研究の中心に据え、軍事研究の水準を上げる。

(3) ロシア・対・西側、ロシア・対・ウクライナ、ロシア・対・トルコといった二国間・二極間関係のみではなく、環黒海地域と中東をカバーした広域政治を明らかにする。

(4) 国家だけではなく、紛争地の擬似国家、傭兵企業、国際 NGO、(クルド人、メグル人、クリミア・タタールなどの) 跨境民族に代表されるトランスナショナルなアクターに注目する。これは、分離紛争を研究する際に特に有益な視角である。

(5) これまで実証が難しかったロシア大統領府の政策決定過程を考察する。

(6) 難民、戦争犯罪など戦争の人道問題とそれへの国、自治体、宗教団体などの対処を調査する。

3. 研究の方法

(1) 研究代表者、分担者、海外協力者を、①軍事プロパー、②ロシアの政策決定過程、③中東・環黒海広域政治、④戦争の人道問題に緩やかに張り付け、研究の推進をめざした。

(2) 各年度に重点的調査地域を設定し、現地調査する。2000-2001年に困難に直面したが、2022年に再開した。

(3) 国際的にパネル組織し、ペーパーを発表することによって、旧ソ連研究者と中東研究者を網羅する新たな研究コミュニティを形成する。

4. 研究成果

(1) 国際協力強化(上記3-(3))については、2019年のスラブ・ユーラシア研究東アジア・コンフェレンス(東京大学で開催)でも、ASEEES(サンフランシスコ)でも、ドンバス戦争とロシアの軍事政策をテーマにしたパネルをそれぞれ2つ組織し、順調な切り出しであった。2020-2021年、COVID-19のため国際共同は困難に直面したが、2022年に様式C-19、F-19-1(共通)再開した。主な例は次の通り。①2022年9月7日、研究分担者である黒木がバイルートで開催し、松里が報告した International Conference, "Middle Eastern, Balkan and Japanese Perspectives on the Global and Regional Impacts of the Ukraine War," Japan Center for Middle Eastern Studies, Beirut, Lebanon。②2022年12月10-11日に行われた第11回スラブ・ユーラシア研究東アジアコンフェレンス(オンライン)で2つのパネルを組織した。③2023年1月米露から著名な軍事専門家(マイケル・コフマンとヴィタリー・カシン)を招いて、東京大学と京都大学でセミナーを開催した。④海外協力者のヴァレンチン・ヤクシクが2023年7月29日に九州大学で組織した International Workshop, "Comparative Studies: Taiwan and Ukraine"において松里が報告した。⑤海外協力者のヘンリー・ヘイルが2024年1月27日に勤務校であるジョージ・ワシントン大学で開催した Workshop on Contemporary Ukrainian Politics 2024, "Informal Politics: Regime Change and Ukrainian Democracy"に松里が招聘されて報告した。

(2) 4つの研究課題につき、知見を要約すると以下の通り。

軍事: 2008年の南オセチア戦争においてロシア軍の有事即応能力、空軍力の弱さが露呈したため、アナトーリー・セルジュゴフ国防相の改革が始まった。この改革は、近い将来に国家間の大規模戦争はないだろうとの見通しの下、軍の伝統的師団編成を改め、戦術グループと呼ばれる単位を導入した。軍の抵抗でセルジュゴフは解任され、セルゲイ・ショイグが国防相になった。シリア戦争前夜、ロシア空軍は航空宇宙軍に改組された。シリア戦争では、

「ロシア航空宇宙軍が空から助け、シリア政府軍が地上戦を戦う」という分業がうまくいったため、ロシアの歩兵戦力の弱体化が露呈せず、ロシア指導部は楽観的な見通しの下、ウクライナに侵攻することになった。2016年の小規模なカラバフ紛争にアゼルバイジャン側が無人機を投入したので、来るべき戦争で無人機・ドローンが大きな役割を果たすことが事前に予想された。ロシア軍は巡航ミサイル・超音速ミサイルの技術革新に集中していたため、この方面また多連装ロケット、通常の榴弾砲の命中精度を上げる技術では立ち遅れており、それが緒戦の苦戦の一因となった。その後、ロシア軍もまた無人機・ドローンを多用するようになったため、両軍ともに、戦車、装甲車、塹壕、防弾壕などの歩兵戦の伝統的アイテムが脆弱になった。これは、西側のウクライナへの戦車等の供与が大きな効果を生まなかった原因のひとつである。格段に消耗度を増した歩兵戦への依存を減らすためにロシア軍は500キログラム誘導弾、フガース弾など破壊力の強い砲弾を使い始め、それがさらにウクライナ軍の損失を大きくした。

ロシアの政策決定過程：ロシアの政策決定過程は、一方では「クレムリンには10の塔（大統領の部下）がある」と言われるように、安全保障問題についてさえ、大統領が部下や現地様式C-19、F-19-1（共通）のジュニア・パートナーに勝手に政策を展開させ、調整が必要になった時に強い調整力を発揮するのが常である。他面では、ロシアの政策決定において、一極世界終焉というイデオロギー的な要因が強くなってきた。とりわけシリア戦争の結果、楽観論（「アメリカの反テロ戦争がことごとく失敗するのは、一極世界が終わりつつあるからだ」）、と悲観論（「イスラーム急進派がシリアで覇権を確立すれば、旧ソ連出身の急進派が旧ソ連に帰還してくるだろう」）が結合し、そのため政策が急進化して、「いちかばちか」の様相を帯びてきた。ウクライナに対しても、「一極世界の終焉」という楽観論と、「だからこそ西側はロシアにウクライナをけしかけている」という悲観論が結合した。露ウ開戦開戦後は、負担を過重にせず国民の戦争支持を継続させるために、戦闘規模が抑えられている（低水準戦時体制）。

中東・環黒海広域政治：シリア戦争の初期においては、西側とアラブ諸国・トルコの反アサド連合が成立し、アサド政権は非常に苦しい状況にあった。ロシアはシリア戦争に介入し、アサド政権とアラブ諸国・トルコの間を仲介する活動を行った。これによりロシアはアサド体制を救済したのみではなく、中東に新規の武器マーケットを獲得した。シリア戦争中のロシアの中東外交の成功が、露ウ戦争の開始後、中東諸国がウクライナに同情的でないことの影響にある。ウクライナの政治体制は、地域閥が中央への影響力をめぐって競合していた求心的寡頭制から、中央政治と地方政治がバラバラのポピュリスト体制に移行した。そのポピュリズムの一環として、2018年頃からウクライナの与党勢力は、ウクライナのNATO加盟、EU加盟を異常に強調するようになり、ロシアとの関係が悪化した。エルドアン時代のトルコ外交は、米国一極支配が弱まる中で、受動的なソフト・バランス戦術から積極的なヘッジ戦術に移行した。つまりエルドアン政権は西側とロシア・中国の間でバランスをとるようになり、しかも国内受けも狙って、様々な外交上の提言をするようになった。

戦争人道問題：黒木・錦田が主に論じた。黒木は（しばしばイスラーム文化と結びついた）コネクティビリティ、錦田はシティズンシップという概念を用いた。難民が必ずしも受動的な存在ではないこと、また難民を受け入れる側の社会も変化を迫られることを、黒木・錦田は強調した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計52件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 松里公孝	4. 巻 957
2. 論文標題 未完の国民、コンテスタブルな国家、ロシア・ウクライナ戦争の背景	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 42-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 松里公孝	4. 巻 50 (6)
2. 論文標題 ドンバスの保護、ウクライナの脱ナチ化 露ウ戦争の目的と矛盾	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 109-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 松里公孝	4. 巻 288
2. 論文標題 ロシア・ウクライナ戦争から何を学ぶか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 あらかとつりよう	6. 最初と最後の頁 20-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 松里公孝	4. 巻 70 (6)
2. 論文標題 ロシアとウクライナのテレビニュース事情 露ウ開戦で何が変わったか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 26-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 松里公孝	4. 巻 51
2. 論文標題 露ウ戦争におけるロシアの目的 政権打倒、征服、そして領土整理へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ロシア・東欧研究	6. 最初と最後の頁 1 - 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 松里公孝	4. 巻 1
2. 論文標題 2月24日之后斯拉夫欧ya的危机：重fang wan期Sulian	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 俄luo斯研究	6. 最初と最後の頁 64-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 大串敦	4. 巻 955
2. 論文標題 ウクライナ侵攻：「勝者なき紛争」がなぜ起こったか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 42 - 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松里公孝	4. 巻 68
2. 論文標題 シリア戦争とロシアの世界政策	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 スラウ研究	6. 最初と最後の頁 71-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松里公孝	4. 巻 72
2. 論文標題 旧ソ連圏の分離紛争 その歴史とウクライナ侵攻への射程	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 .	4. 巻 . 8, 2
2. 論文標題) (5. 発行年 2021年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 113-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 541
2. 論文標題 諦めと期待の狭間で 関係正常化に対するパレスチナ自治区住民の反応	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 34-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 131
2. 論文標題 「国家主権の外側にある者の危機 COVID-19禍におかれた移民/難民およびパレスチナ」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法学政治学論究	6. 最初と最後の頁 27-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazunobu Hayakawa and Kohei Imai	4. 巻 Volume 45, Issue 2
2. 論文標題 Who Sends Me Face Masks? Evidence for the Impacts of COVID-19 on International Trade in Medical Goods	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The World Economy	6. 最初と最後の頁 365-385
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 207
2. 論文標題 書評論文 アイデンティティから読み解くトルコ外交	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 173-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 第128巻第9号
2. 論文標題 権威主義の拡散に対する国民の反応	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法学新報・星野智教授退官記念論文集	6. 最初と最後の頁 87-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 702
2. 論文標題 トルコ外交の変遷とトルコ・アメリカ関係の現在地	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 23-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松里公孝	4. 巻 68
2. 論文標題 シリア戦争とロシアの世界政策	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 スラヴ研究	6. 最初と最後の頁 近刊
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 10
2. 論文標題 難民研究における人類学的アプローチの効用 スウェーデンとドイツのアラブ系移民 / 難民研究の事例から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 難民研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 60 - 73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Ogushi	4. 巻 vol. 72, no. 10
2. 論文標題 The Opposition Bloc in Ukraine: a Clientelistic Party with Diminished Administrative Resources	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Europe-Asia Studies	6. 最初と最後の頁 1639 - 1656
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09668136.2020.1770701	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串敦	4. 巻 741
2. 論文標題 プーチン体制の安定性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 修親	6. 最初と最後の頁 6 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串敦	4. 巻 63
2. 論文標題 プーチン体制長期化が示すもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 114-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 1006
2. 論文標題 トルコ政府によるアヤソフィアの再モスク化に関する一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 32-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉悠	4. 巻 27
2. 論文標題 書評論文 大国間競争時代における宇宙安全保障の今後 : 福島康仁著『宇宙と安全保障 : 軍事利用の潮流とガバナンスの模索』を手がかりとして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 戦略研究	6. 最初と最後の頁 101-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉悠	4. 巻 第61巻第7号
2. 論文標題 ロシアのインテリジェンス機関とICT	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 情報処理	6. 最初と最後の頁 693-699
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kimitaka Matsuzato, M.-R. Ibragimov	4. 巻 v. 27, no. 4
2. 論文標題 Islam and Local Politics in Counties of South Dagestan under Governor Ramazan Abdulatipov (2013-2017)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Demokratizatsiya: The Journal of Post-Soviet Democratization	6. 最初と最後の頁 497-523
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 大串敦	4. 巻 922
2. 論文標題 ウクライナ大統領選：圧勝の背景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 18-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 第47巻第3号
2. 論文標題 反基地運動はなぜ起こるのか / 活性化するのか? トルコの事例の比較分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際安全保障	6. 最初と最後の頁 17-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohei Imai	4. 巻 No. 35, Vol. 1
2. 論文標題 Why Syrian Refugees in Turkey Choose Turkey as a Final Destination: Results of Public Opinion Survey of Syrian Refugees in Turkey	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Annals of Japan Association for Middle East Studies	6. 最初と最後の頁 119-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 536号
2. 論文標題 公正発展党の内政における政権維持の手法（2002年～2019年）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kimitaka Matsuzato	4. 巻 46: 6
2. 論文標題 The Donbas War and Politics in Cities on the Front: Mariupol and Kramatorsk	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nationalities Papers	6. 最初と最後の頁 1008 - 1027
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/00905992.2018.1480598	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 40
2. 論文標題 なぜトルコとアメリカの関係は悪化したのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 123 - 138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 671
2. 論文標題 中東地域秩序にクルド人の居場所はあるか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 17 - 26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 66
2. 論文標題 際立つ民族主義者行動党の存在感	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 55 - 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 194
2. 論文標題 「主権の空白地」の統治をめぐるせめぎ合いーイラクとシリアにおける「イスラーム国」とクルド人組織の活動を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 46 - 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aiko Nishikida	4. 巻 732
2. 論文標題 Hamas and the Gaza war of 2014 : developments since the Arab spring in Palestine	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IDE Discussion Papers	6. 最初と最後の頁 all pages
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aiko Nishikida	4. 巻 731
2. 論文標題 Hamas's ascension and its international relations : literature review	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IDE Discussion Papers	6. 最初と最後の頁 all pages
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 46: 8
2. 論文標題 離散から70年 パレスチナ難民の帰還をめぐる思い	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 180-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串敦	4. 巻 676
2. 論文標題 全人民の指導者：プーチン政権下のロシア選挙権威主義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 5 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Ogushi	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 The Opposition Bloc in Ukraine: A Clientelistic Party with Diminished Administrative Resources	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Europe-Asia Studies	6. 最初と最後の頁 forthcoming
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒木英充	4. 巻 714
2. 論文標題 世界に広がるアラブ移民	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史と地理 世界史の研究	6. 最初と最後の頁 50 - 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒木英充	4. 巻 15: 6
2. 論文標題 なぜシリア内戦は終わらないのか 大国の戦場になるシリア	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 DAYS JAPAN	6. 最初と最後の頁 16 - 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒木英充	4. 巻 976
2. 論文標題 コメント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 18 - 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉悠	4. 巻 54: 4
2. 論文標題 ロシア謎の民間軍事会社"ワグネル"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 軍事研究	6. 最初と最後の頁 230 - 241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉悠	4. 巻 180
2. 論文標題 ロシアの武器輸出を巡る米露関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CISTEC journal	6. 最初と最後の頁 129 - 137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉悠	4. 巻 54: 3
2. 論文標題 カネ・ヒト・モノから徹底分析 外交、経済で追い込まれるプーチン政権 2018年の『軍事情勢』から見えるもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 軍事研究	6. 最初と最後の頁 194 - 205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉悠	4. 巻 54: 3
2. 論文標題 ロシア軍秋季極東大演習「ヴォストーク2018」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 軍事研究	6. 最初と最後の頁 104 - 117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉悠	4. 巻 44: 4
2. 論文標題 ロシア(第1回)演習から読み解く中口の軍事関係 : 巨大演習「ヴォストーク2018」とその周辺	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鵬友	6. 最初と最後の頁 38 - 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉悠	4. 巻 54: 1
2. 論文標題 「ヴォストーク2018」29万7000人動員	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 軍事研究	6. 最初と最後の頁 81 - 92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉悠	4. 巻 53: 12
2. 論文標題 新国家装備計画「GPV-2027」潜水艦・洋上航空戦力編	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 軍事研究	6. 最初と最後の頁 218 - 232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉悠	4. 巻 122
2. 論文標題 ロシアにとっての軍事力とは何か：「大国」ロシアと軍事力の「効用」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 インテリジェンス・レポート	6. 最初と最後の頁 46 - 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉悠	4. 巻 63: 11
2. 論文標題 演習から読み解く口中の軍事関係：巨大演習「ヴォストーク2018」とその周辺	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ロシアNIS調査月報	6. 最初と最後の頁 29 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小泉悠	4. 巻 53: 11
2. 論文標題 ロシア新国家装備計画「GPV-2027」水上艦艇編	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 軍事研究	6. 最初と最後の頁 182 - 194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計65件（うち招待講演 24件 / うち国際学会 39件）

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 Secession Conflicts in Post-Soviet Countries: Federalization, Land-for-Peace, or a War Once More
3. 学会等名 Slavic-Eurasian Research Center 2022 Summer International Symposium, "An Anarchist Turn? Imperial Rule and Resistance in the Long Twentieth Century" (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 Secession Conflicts and How to Solve Them: Towards Comparison between the Former Communist Countries and the Middle East
3. 学会等名 International Conference, "Middle Eastern, Balkan and Japanese Perspectives on the Global and Regional Impacts of the Ukraine War," Japan Center for Middle Eastern Studies, Beirut, Lebanon (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松里公孝
2. 発表標題 帝政末期右岸ウクライナの正教司祭とロシア人民同盟 右派ポピュリズムと村政治
3. 学会等名 ロシア史研究会2022年度大会、法政大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松里公孝
2. 発表標題 ロシアの戦争目的 政権打倒、征服、そして領土整理へ
3. 学会等名 ロシア・東欧学会2022年度大会、新潟大学
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 Kimitaka Matsuzato, Keynote Speech, “ Crises in Slavic Eurasia after February 24. Revisiting the Late Soviet Period ”
3. 学会等名 11th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, East China Normal University, China (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 Fire on the Opposite Shore: Moldovan Politics Facing the Russian Army Approaching Odesa
3. 学会等名 11th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, East China Normal University, China (Online) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松里公孝
2. 発表標題 クリミアとドンバスの分離運動 ロシア・ウクライナ戦争の起源
3. 学会等名 岡山大学文学部プロジェクト講演会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 Federalization, Land-for-Peace, or a War once more: Secession Conflicts in post-Soviet Countries
3. 学会等名 Special Seminar, East China Normal University, Shanghai, PRC (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi Ogushi,
2. 発表標題 Changing Political Cleavages in Ukraine
3. 学会等名 10th World Congress, International Council for Central and East European Studies, 3-8 August 2021 (online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 The Syrian War and Russia's Weltpolitik
3. 学会等名 10th World Congress, International Council for Central and East European Studies, 3-8 August 2021 (online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 .
2. 発表標題
3. 学会等名 20 " (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Aiko Nishikida
2. 発表標題 "Correlation of the Jordanian Water Strategy with the Global SDGs Movement (online)
3. 学会等名 ICAS 12 Panel "Climate Change and Water Politics in Asia from Comparative Perspective (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Aiko Nishikida
2. 発表標題 Identity and Identification of the Syrian Refugees in Germany
3. 学会等名 IPSA2021 (online panel, "Nationalism and Voluntary Repatriation of Refugees: Future of the Syrian Conflict within its Historical Experience") (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kohei Imai
2. 発表標題 Economic Diplomacy on Turkish foreign policy under AKP
3. 学会等名 IPSA 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kohei Imai
2. 発表標題 Who Cares about Refugee Issues in Elections?-Preliminary Considerations about Turkish Citizens
3. 学会等名 EISA PEC 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hidemitsu Kuroki
2. 発表標題 Multilayered and Interactive Networks of Syrian and Lebanese Diaspora: A Historical Perspective, "
3. 学会等名 The 1st International Conference "Phenomena of Neo-Diaspora in Post-Arab Spring," The Institute of Middle East Studies at Hankuk University of Foreign Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒木英充
2. 発表標題 コロナ危機から1年、スペイン風邪から100年 COVID-19 の先の中東と中東研究
3. 学会等名 日本中東学会第37回年次大会・公開講演会（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒木英充
2. 発表標題 レバノン・シリア移民の歴史と背景、レバノン危機の現在
3. 学会等名 京都大学Project Watan 講演会「レバノンは今」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松里公孝
2. 発表標題 ロシアのシリア戦争への介入理由
3. 学会等名 ロシア・東欧学会 2020年度年次大会
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 Aiko Nishikida, Yutaka Takaoka, and Shingo Hamanaka
2. 発表標題 The Circumstances and Challenges for the Return Migration of Syrian Migrants-Refugees
3. 学会等名 European Social Science History conference (ESSHC) Annual Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 錦田愛子
2. 発表標題 国家主権の外側におかれる者の危機 移民/難民およびパレスチナの権利をめぐって
3. 学会等名 日本国際政治学会 2020年度年次大会
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 黒木英充
2. 発表標題 疫病と社会 レバノンが直面する困難と将来
3. 学会等名 第228回広島大学平和センター研究会(招待講演)
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 黒木英充
2. 発表標題 疫病により試される社会のカー近現代のシリア・レバノンから
3. 学会等名 新学術領域研究「グローバル関係学」連続ウェブ・セミナー「新型コロナウイルスと中東」第1回(招待講演)
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 黒木英充
2. 発表標題 レバノン・シリア移民のコネクティビティと信頼構築
3. 学会等名 学術変革研究「イスラーム信頼学」A03・B01ワークショップ
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 今井宏平
2. 発表標題 クルディスタン労働者党（PKK）の戦略変化に関する政治学的考察
3. 学会等名 日本中東学会
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 Governor-generalships in Asiatic Russia: Geopolitics and Territorial Management
3. 学会等名 北京大学歴史学部セミナー，4月12日（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 Cultural Geopolitics and Area Studies
3. 学会等名 International Conference, "Area Studies Towards the 21st Century: Global Experiences and China Paradigms, " Institute of Area Studies, Peking University, PRC, 13 - 14 April（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 Geopolitics and Semi-Presidentialism: Constitutional Reforms in Ukraine and Moldova since 2008
3. 学会等名 The 9th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies（東京大学本郷キャンパス，6月29 - 30日）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 The Orthodox Clergy and the Union of the Russian People in Right-Bank Ukraine in 1905-1914
3. 学会等名 ASEEES 48th Annual Convention, San Francisco, USA, 23-26 November (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 On Slavic Eurasian Studies in Japan
3. 学会等名 ASEEES 48th Annual Convention, San Francisco, USA, 23-26 November (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hidemitsu Kuroki
2. 発表標題 Unwittingly Globalized: Connectivity of Lebanese and Syrian Migrants during the Late 19th and Early 20th Centuries
3. 学会等名 Symposium "Crossing Boundaries: Migration, Mediation, Morality," 東京大学東洋文化研究所, 6月9日 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hidemitsu Kuroki
2. 発表標題 A Far Dwelling Friend is Better than a Near Kinsman?: The Structure of the Eastern Question and the Russian Involvement in the Syrian Civil War
3. 学会等名 The 9th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (東京大学本郷キャンパス, 6月29 - 30日) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hidemitsu Kuroki
2. 発表標題 The Syrian Civil War in Comparison with the Lebanese and Yugoslavian Civil Wars
3. 学会等名 2019 Korean Association for Middle East Studies International Conference, Hankuk University of Foreign Studies, Seoul, 23 November (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hidemitsu Kuroki
2. 発表標題 Opening Remarks
3. 学会等名 Workshop "Lebanese, Yugoslavian, and Syrian Civil Wars and their Aftermath," Institute for Contemporary History, Belgrad, 12 September (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒木英充
2. 発表標題 世界の内戦を考える：レバノン、ユーゴスラビア、シリアを事例に
3. 学会等名 第223回 広島大学平和センター研究会，広島大学総合科学部，10月31日（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒木英充
2. 発表標題 レバノン、160年越しの変革なるか：宗派体制・宗派主義の行方、暗転の兆し
3. 学会等名 緊急ワークショップ「『アラブの春』再来？スーダン、レバノン、そしてイラク」、明治大学駿河台キャンパス、12月15日（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko Nishikida
2. 発表標題 Multi-level Support System and Its Appreciation by Syrian Refugees in Germany
3. 学会等名 The 9th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (東京大学本郷キャンパス, 6月29 - 30日) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko Nishikida
2. 発表標題 After the Crisis in 2015 Adaptation of Syrian Refugees in Germany
3. 学会等名 International Conference "Syrian Refugee Crisis: for Regional to Global Challenges." Institute of Oriental Studies, National Academy of Science of Armenia, Yerevan, 2 September (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko Nishikida and Hiroyuki Aoyama
2. 発表標題 A Comparative Study of Dynamics and Perception of the Syrian Refugees
3. 学会等名 Symposium, "The Global Syrian Refugee Crisis: Health and Socioeconomic Perspectives, Challenges and Opportunities," Gaziantep University, Turkey, 16 October (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko Nishikida
2. 発表標題 The Institutions and Organizations of Refugee Integration: Voices of Bosnian-Herzegovinian and Syrian Refugees, and Lessons from their First Years in Sweden
3. 学会等名 SDGs Seminar 2020-1, 東京大学本郷キャンパス, 1月23日 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 錦田愛子
2. 発表標題 帰還をめぐる思い：シリア難民の移動に対する意識の比較分析
3. 学会等名 日本中東学会第 35 回年次大会，秋田大学，5月12日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 錦田愛子
2. 発表標題 イスラエル選挙と中東和平の行方
3. 学会等名 S&Aフォーラム，虎ノ門琴平タワー，5月29日（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大串敦
2. 発表標題 プーチンのグランド・ストラテジー？：ロシアの紛争介入を事例として
3. 学会等名 日本国際政治学会，新潟コンベンションセンター，10月18 20日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsushi Ogushi
2. 発表標題 Russian Deputy Ministers: Patrimonial or Technocratic Elites?
3. 学会等名 International Symposium, 'Global Crisis of Democracy? Rise and Evolution of Authoritarianism and Populism,' The Slavic-Eurasian Research Center, Hokkaido University, 4-5 July (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsushi Ogushi
2. 発表標題 Toward a Party System Collapse? Chaotic Elite Realignment in Ukraine
3. 学会等名 The 9th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (東京大学本郷キャンパス, 6月29 - 30日) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kohei Imai
2. 発表標題 Why Protests against the U.S. Bases Have not Frequently Happened in Turkey? ”,
3. 学会等名 13th Pan-European Conference on International Relations, Sofia, 14 September (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今井宏平
2. 発表標題 外圧による民主化と新興国の民主化支援との関係：公正発展党政権期のトルコを事例として
3. 学会等名 日本比較政治学会第22回研究大会、筑波大学、6月29日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kohei Imai
2. 発表標題 Why Turkey Focuses on Establishment of Small Scale Organizations?: Causes and Conditions
3. 学会等名 Mediterranean Studies Association, 22nd Annual International Congress, University of Crete, Greece, 29 May-2 June (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yu Koizumi
2. 発表標題 Russia's Military Buildup in the Black Sea and Mediterranean Regions: A2/AD Capacities as a Key to Understand Russia's Strategic Strength and Vulnerabilities,
3. 学会等名 ASEEES 48th Annual Convention, San Francisco, USA, 23-26 November (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 The First Four Years of the Donetsk People's Republic: The Differentiating Elites and Surkov's Political Technologists
3. 学会等名 International Symposium, "Russian Policy and the War in Ukraine's Donbas: Options for the Future and Canadian Responses" University of Alberta (Edmonton, Canada) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato, M.-R. Ibragimov
2. 発表標題 Islam and Local Politics in Counties of South Dagestan under Governor Ramazan Abdulatipov (2013 - 2017)
3. 学会等名 ASEEES 48th Annual Convention (Boston, USA) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名
2. 発表標題
3. 学会等名 ロシア政治学会第3回大会 (モスクワ市、ロシア) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kimitaka Matsuzato
2. 発表標題 Cultural Geopolitics: Legitimacy of Orthodox Churches in Unrecognized States and Ukraine
3. 学会等名 上海外国語大学名誉教授任命記念講演（松江、中国）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名
2. 発表標題 :
3. 学会等名 第4回春の歴史講読会、ユーラシア大学歴史学部（ヌルスルタン市、カザフスタン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今井宏平
2. 発表標題 シリア難民に対するトルコとEUの協調行動
3. 学会等名 日本国際政治学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kohei IMAI
2. 発表標題 The perception toward child education of Syrian refugees in Turkey
3. 学会等名 Turkish - Japanese Joint Research Workshop on Migration （招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kohei IMAI
2. 発表標題 Ideas of intellectual circles during the interwar period and its contribution to non-Western IR: The case of Kadro movement in Turkey
3. 学会等名 60th ISA Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko Nishikida
2. 発表標題 New Boundary of Japanese Migration Governance
3. 学会等名 Turkish-Japanese Joint Research Workshop. YASAR UNIVERSITY, Senate Room, Izmir, Turkey (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko Nishikida
2. 発表標題 Prolonged Conflict and Multidimensional: approach to the issue of Palestinian refugees
3. 学会等名 Comparative Solutions of Conflicts in the World. 21 December 2018. Hotel Zira, Belgrade, Serbia
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 錦田愛子
2. 発表標題 離散により乗り越える分断 パレスチナ人の再難民化と国民国家
3. 学会等名 日本国際政治学会2018年度年次大会
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Aiko Nishikida
2 . 発表標題 Living Strategy of Transnational Families: The Effect of the Border Control on Migration to the EU countries
3 . 学会等名 International Symposium “Border/Boundary Control in the Age of Transnationalization: Comparing Experiences in North America, E.U., & Japan
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Aiko Nishikida, Yutaka Takaoka, and Shingo Hamanaka
2 . 発表標題 Comparative study of the dynamics of the Syrian refugees in Jordan, Turkey and Sweden
3 . 学会等名 European Social Science History conference Annual Conference
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hidemitsu Kuroki
2 . 発表標題 Dragomanity: Multiple Belonging and Multi-Faceted Strategy for
3 . 学会等名 6th meeting of the project “Studies on Religious
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hidemitsu Kuroki
2 . 発表標題 Preamble
3 . 学会等名 Workshop “Syrian Civil War: Comparative Perspectives with Lebanese and Yugoslavian Civil Wars ”
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 黒木英充
2. 発表標題 シリア内戦と「対テロ戦争」
3. 学会等名 第219回 広島大学平和センター研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計43件

1. 著者名 今井宏平	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 教養としての中東政治	

1. 著者名 今井宏平	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 144
3. 書名 クルド問題 非国家主体の可能性と限界	

1. 著者名 Hidemitsu Kuroki	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 203
3. 書名 Survival Strategies of Minorities in the Middle East: Studies on Religious and Politico-Social Minority Groups in Middle Eastern Societies (“Dragomanity: Multiple Belonging and Survival Strategy of Non-Muslim Interpreters in Ottoman Aleppo,” pp. 43 - 64)	

1. 著者名 今井宏平	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 326
3. 書名 『世界変動と脱EU / 超EU』（「トルコ：ヨーロッパ難民危機以降のEUとの関係」、205-225）	

1. 著者名 今井宏平	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 310
3. 書名 『アンドロポセン時代の国際関係』（「戦略的ヘッジングの理論と実践」、149-167編）	

1. 著者名 Kimitaka Matsuzato	4. 発行年 2021年
2. 出版社 CEU Press	5. 総ページ数 400
3. 書名 The Tsar, the Empire, and the Nation: Dilemmas of Nationalization In Russia's Western Borderlands, 1905-1915 (" Politics around Universal Education in Right-bank Ukraine in the Late Tsarist Period," pp. 203-232を執筆)	

1. 著者名 今井宏平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 192
3. 書名 『UP plus 新興国から見るアフターコロナの時代：米中对立の間に広がる世界』（「継続する安全保障化と地域秩序中心のアプローチ」、53-63頁）	

1. 著者名 今井宏平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 『よくわかる国際政治』(「中東：綻ぶ主権国家体系」、176-177頁)	

1. 著者名 大串敦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 『歴史総合:世界と日本』(「ソ連はなぜ崩壊したのか」、200 - 208頁)	

1. 著者名 大串敦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 252
3. 書名 『ハンドブック ヨーロッパ外交史：ウエストファリアからブレイグジットまで』(「ソ連解体」、196 - 201頁)	

1. 著者名 錦田愛子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 『中東・イスラーム世界への30の扉』(「難民危機を振り返る シリアの変貌と海を渡った人びと」259-268頁)	

1. 著者名 松里公孝	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ちくま新書	5. 総ページ数 376
3. 書名 ポスト社会主義の政治—ポーランド、リトアニア、アルメニア、ウクライナ、モルドヴァの準大統領制	

1. 著者名 松永泰行、錦田愛子ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 226
3. 書名 「境界」に現れる危機シリーズ「グローバル関係学」第2巻	

1. 著者名 浜中新吾、錦田愛子ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 264
3. 書名 中東政治研究の最前線：イスラエル／パレスチナ	

1. 著者名 上谷直克・今井宏平・中井遼共訳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 234
3. 書名 エリカ・フランツ『権威主義 独裁政治の歴史と変貌』	

1. 著者名 高橋良輔・山崎望・今井宏平ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 324
3. 書名 時政学への挑戦 政治研究の時間論的転回	

1. 著者名 川名晋史・今井宏平ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 基地問題の国際比較 「沖縄」の相対化	

1. 著者名 羽場 久美子・今井宏平ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 416
3. 書名 移民・難民・マイノリティ	

1. 著者名 坂井一成・八十田博人・今井宏平ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 よくわかるEU政治	

1. 著者名 小泉悠	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学先端科学技術研究センター	5. 総ページ数 16
3. 書名 ROLES REPORT No.2 『新テクノロジーと安全保障の将来像 技術革新が秩序に及ぼすインパクトとその限界』	

1. 著者名 森本敏、高橋杉雄、戸崎洋史、合六強、小泉悠、村野将	4. 発行年 2020年
2. 出版社 並木書房	5. 総ページ数 388
3. 書名 新たなミサイル軍拡競争と日本の防衛	

1. 著者名 多賀 秀敏、小泉悠ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 406
3. 書名 平和学から世界を見る	

1. 著者名 平和・安全保障研究所（西原正監、小泉悠ほか）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝雲新聞社	5. 総ページ数 272
3. 書名 アジアの安全保障2020-2021	

1. 著者名 川上高司、石澤靖治、小泉悠ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 創成社	5. 総ページ数 272
3. 書名 2020年生き残りの戦略：世界はこう動く！	

1. 著者名 小泉悠	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 296
3. 書名 「帝国」ロシアの地政学：「勢力圏」で読むユーラシア戦略	

1. 著者名 小泉悠	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 252
3. 書名 秋山 信将, 高橋 杉雄 編 『「核の忘却」の終わり：核兵器復権の時代』	

1. 著者名 小泉悠	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 296
3. 書名 川名晋史 編 『共振する国際政治学と地域研究 基地、紛争、秩序 』、2019年	

1. 著者名 黒木英充	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 永原陽子編『人々がつなぐ世界史』(233-258頁担当)	

1. 著者名 錦田愛子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 錦田愛子編『政治主体としての移民/難民：人の移動が織り成す社会とシティズンシップ』(編集および11-27, 238-257頁担当)	

1. 著者名 錦田愛子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東海大学出版部	5. 総ページ数 264
3. 書名 インタラクティブゼミナール 新しい多文化社会論：共に拓く共創・協働の時代(199-210頁担当)	

1. 著者名 錦田愛子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 408
3. 書名 小泉康一編『「難民」をどう捉えるか：難民・強制移動研究の理論と方法』(81-96頁担当)	

1. 著者名 今井宏平	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 268
3. 書名 広瀬佳一編『現代ヨーロッパの安全保障』	

1. 著者名 今井宏平	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 中村覚監修・間寧編『シリーズ中東政治研究の最前線 第1巻・トルコ』	

1. 著者名 錦田愛子（松原康介編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 400
3. 書名 地中海を旅する62章 歴史と文化の都市探訪	

1. 著者名 黒木英充、今井宏平（山口昭彦編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 352
3. 書名 クルド人を知るための55章	

1. 著者名 川名晋史、齊藤孝祐、高橋美野梨、小泉悠、堀場明子、福田毅、山崎周、今井宏平、溝渕正季、東野篤子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 296
3. 書名 共振する国際政治学と地域研究	

1. 著者名 小笠原弘幸、穂山祐子、今井宏平、上野愛実、沖祐太郎、柿崎正樹、川本智史、田中英資、濱崎友絵、山尾大	4. 発行年 2019年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 324
3. 書名 トルコ共和国 国民の創成とその変容 アタテュルクとエルドアンのはざままで	

1. 著者名 川中豪、重富真一、湊一樹、間寧、牧野久美子、大串敦、馬場香織、菊池啓一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 270
3. 書名 後退する民主主義、強化される権威主義：最良の政治制度とは何か	

1. 著者名 松里公孝（廣瀬陽子編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 426
3. 書名 アゼルバイジャンを知るための67章	

1. 著者名 松里公孝 (服部倫卓ほか編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 408
3. 書名 ウクライナを知るための65章	

1. 著者名 Hidemitsu Kuroki, ed.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa,	5. 総ページ数 280
3. 書名 Human Mobility and Multiethnic Coexistence in Middle Eastern Urban	

1. 著者名 Hidemitsu Kuroki (ed. Antranik Dakessian)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Beirut, Haigazian University Press	5. 総ページ数 352
3. 書名 Armenians of Syria: Proceedings of the Conference (24-27 May 2015)	

1. 著者名 小泉悠 (川名晋史編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 296
3. 書名 共振する国際政治学と地域研究：基地、紛争、秩序	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ウクライナのリージョンの政治エリート
<http://www.ukrregion.j.u-tokyo.ac.jp/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小泉 悠 (Koizumi Yu) (10817307)	東京大学・先端科学技術研究センター・特任助教 (12601)	
研究分担者	黒木 英充 (Kuroki Hidemitsu) (20195580)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授 (12603)	
研究分担者	大串 敦 (Ogushi Atsushi) (20431348)	慶應義塾大学・法学部(三田)・准教授 (32612)	
研究分担者	錦田 愛子 (Nishikida Aiko) (70451979)	慶應義塾大学・法学部(三田)・准教授 (32612)	
研究分担者	今井 宏平 (Imai Kohei) (70727130)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター中東研究グループ・研究員 (82512)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------